

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間発達学	PSF11-005 OSF21-001 HSF12-008	(リ理.理) 必修 (リ作) 必修 (福.人) 選択	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡辺 俊太郎	C318	shuntaro.watanabe	火曜日 13:00~14:30		
授業の目的・概要	人間を発達的な視点からとらえ、生涯発達の支援で展望する事ができる。また、人間を発達的な視点で捉える事でその後学ぶ臨床的な知識の理解をより深める事ができる。授業を通して自分自身を振り返るとともに今後会う対象者の理解に役立てる。各回の内容について、動画を含めて理解し、その後の課題を通じたフィードバックと Teams を利用した意見交換を行い、発達に関する理解を深める。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	人間を身体と精神の両面から生涯発達する存在として捉え、ライフステージにおける発達過程を講義する。発達の視点より生命倫理の観点についても授業内容に取り込む。また、目と手の協調・日常生活動作(食事・排泄・更衣)遊び・社会性の発達を深く掘り下げる。特に原始反射、姿勢反応と乳児の運動発達過程については予習・復習を行ってほしい。				
教科書	イラストでわかる人間発達学/ 監修：上杉雅之/ 医歯薬出版/ 2015				
参考書	発達を学ぶ 人間発達学レクチャー/ 著：森岡 周/ 協同医書出版社/ 2016				
外部教材	ヒトの心はどのように生まれ、進化してきたか？ 東京大学 長谷川寿一 東大 TV を授業開始前に視聴して本科目に臨むこと				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	原始反射と姿勢反応について理解し、説明できる			HSU(2)、RH(2)	
②	乳児の運動発達過程を理解し、原始反射と姿勢反応との関係性について説明できる			HSU(2)、RH(2)	
③	各ライフステージにおける発達課題と危機について理解し、説明できる			HSU(1)、(2)、RH(2)、(4)	
④	「命」について生倫理の観点から深く考え、自分なりを説明できる			HSU(1)、(2)、RH(1)、(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	リハビリテーションにおける運動発達の重要性を学習する	同時双方向型授業	自らの発達状況について確認する。	4	
2	発達概念：人間発達の区分、発達の原則、治療における発達の重要性(ライフステージ)について学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第1章)。	4	
3	発達理論について・漸成的発達理論(エリクソン、ピアジェ、フロイト)について学ぶ	同時双方向型授業	教科書を読む(第2章)。	4	
4	発達検査について(遠城寺、GMFCS、デンバー、PEDI)学ぶ	同時双方向型授業	教科書を読む(第3章)。	4	
5	姿勢反射/反応：乳児期の運動発達過程と原始反射、姿勢反応との関連性を学ぶ	同時双方向型授業	教科書を読む(第4章)。	4	
6	運動・認知発達について(0~3 か月、4~6 か月)(乳児期)学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第5・6章)。	4	
7	運動・認知発達について(4~6 か月、7~9 か月)(乳児期)学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第6・7章)。	4	
8	運動・認知発達について(7~9 か月、10~12 か月)(乳児期)学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第7・8章)。	4	
9	運動・認知発達について(13~18 か月)(幼児期)学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第9章)。	4	
10	学童期の発達について(社会・心理・身体)学習する <食事・上肢>	同時双方向型授業	教科書を読む(第10章)。	4	
11	青年期・成人期の発達について(社会・心理・身体)学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第10章)。	4	
12	感覚・知覚・認知・社会性の発達について学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第14章)。	4	
13	高齢期の発達について(社会・心理・身体)学習する	同時双方向型授業	教科書を読む(第14章)。	4	

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

14	ADL の発達 (排泄・更衣・遊び) を学ぶ	同時双方向型授業	教科書を読む (第 13 章)。	4					
15	発達に関するまとめを行う	同時双方向型授業	教科書を読む (第 14 章)。	4					
試	レポート課題にて実施								
達成度評価									
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		70	0	0	0	30	100		
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60		
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	10	10		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0		
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	0		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	10	10	0	0	10	20		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	10		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	✓	定期試験を実施して評価する。ライフステージにおける発達過程と課題、ライフステージ間の関連性について問う (70%)。				試験問題および回答用紙の返却		
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤								
	⑥								
レポート	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
成果発表	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①	✓	各ライフステージにおける知識や理論の習熟度を測るために、授業時間内に小テストを実施する。授業で得た知識に対して、思考・創造、推論、表現する力、課題に取り組む姿勢・意欲、問題を発見・解決する力を評価の対象とする (30% : 10 回実施)。				授業内で得た知識の臨床での応用方法について授業内で情報共有する。		
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤								
	⑥								
備 考									
他 担 当 教 員	なし								
教員の実務経験	発達領域と成人領域の作業療法士として 15 年以上の臨床経験								
実践的授業の内容	臨床現場における最新情報と共に、その専門性を学生に教授する。								
そ の 他	Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがあるため通信量に十分に注意すること。今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。								